

2.2. 花山稲荷神社の鍛冶伝承 名刀子狐丸 稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説



山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神








**三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地
達光宮が祭られている「稲荷塚」**

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣遺跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより

京都市地下鉄東西線柳辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承
名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがりより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。

すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのです。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。





花山稲荷神社のお火焚き・ふいご祭り

花山稲荷神社ホームページより

11月第2日曜（平成28年11月13日）

平安時代の三条小鍛冶宗近の故事に因むもので、火焚串（護摩木）を独特の形に積み上げ、焚き上げる

花山稲荷神社は 古くから金物と神様としても有名で、かつて三条小鍛冶宗近が、当地の埴土で「ふいご」を築き、花山大神の御神助により一世一代の名剣「小狐丸」を鍛えたといわれ、その後伝え聞いた諸国の鍛冶師たちは先を争って当社に参詣したと伝えられている。

本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳（円墳）があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。その前に、鉄に携わる人たちの信仰を集めてきた末社達光宮があり、祭神として 芸事、弁才、手先の技術の守護神 市杵島比売大神 鍛冶師の守り神金山比古大神、金山比売大神、天目一箇大神をまつり、この後ろには、稲荷塚の石碑と元禄12年銘のある灯籠の台座が現存。

火焚祭では三条小鍛冶宗近の故事にちなんで古くから火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる。



毎年11月第2日曜日 火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる花山神社のふいご祭り

遠い昔、稲作がわが国に伝えられたころ、稲荷の神様が直接「ふいご」を操ったとはまず考えられませんが、「ふいご」で作りだされた様々な鉄製農機具が稲作に不可欠な道具と考えられるようになってから、稲荷の神と「ふいご」の共存共栄が始まり、もともと金物の神の祭りであった火焚祭が2000年もの間、最重要産業であった稲作の守護神として多大な敬意をはらわれてきた稲荷の神様の祭りとして後世に伝わったものと考えられます。

花山稲荷神社ホームページより

山科 西野山 walk 主要訪問先案内

